時事新報の財政始末

財政の事は目下の一問題にして近日に至りては頻く金融切迫の聲を發し其救濟策として朝野の所論少なからず蓋し天下の人事は其生ずるの日に生ずるにあらずして原因は遠く數年前に在りて存するを常とす本社讀者の所見に於ては此原因を**明治十年西南の役**に歸して爾來財政の沿革を三段に分ち以て今日に立至りし次第を陳べ終りに**救濟の策**に論及して之を**財政始末**と題し來る二十九日より數日間の紙上に掲載して讀者の高評を乞はんとす

時事新報定價

時事新報へ一年三百六十五日一日も休刊セズ其代價遞送料廣告料ハ左ノ如シ

一枚二錢○一箇年前金五十錢○三箇月前金一圓五十錢○六箇月前金三圓○一箇年前金六圓

○時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ遞送スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一箇月十五錢ノ遞送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

一行五號活字廿四字詰	一日限	二日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十二錢	十一錢	十錢五厘

月曜日并に大祭祝日の翌日等他新聞紙の休刊日に限り時事新報配達の求めに應ず此場合には新報代價一箇月前金入錢にして地方に郵送する分は此外に貼用する郵便印紙の代價を申受く可し

時事新報

國會開設後の內閣

施政の方針は輿論の向ふ所に隨て決す可しとは文明流政治の骨髓にして誠に簡單明白の道理なれども之を實際に施行するに當りては各國おの〳〵國情民俗なるものありて其形式體裁は共に一樣なるを得べからず例へば同じ立憲の制度にても王室は政治以外に卓立し政黨の勝敗を以て內閣の更迭を行ふと英國の如きものもあれば君主親から實權を掌握し國會の議を聽て萬機を裁斷するなど獨逸の如きものもありて各々其習慣を異にするが如し政黨內閣の習慣必ずしも惡しきにあらず唯君主內閣の制度必ずしも惡しきにあらず唯その國情民俗の歷史上より自然に發達して以て今日の宜しきを得たるものなれば自國の如何を顧みずして漫に他の形式體裁に倣はんとするは到底無駄の沙汰ありと知る可し我國とても憲法既に定まり國會も愈々開くるに就ては日なからずして立憲制度の實行を實際に見るみとならんが扨その有樣は如何ある可きや帝室の事は敢て論せず內閣の責任の如きは憲法にも明文あり又その實制も既に一定したるものなるが如しと雖も政治の出來事は變化測る可らずして且つ當局者一個の進退に至りては必ずしも一々法文に拘泥する能はざるみと勿論なれば之を事實に徵して我國今後の內閣は如何ある有樣ど現出す可きか之を今日に研究するも强ち無稽の譏にあらざる可し抑も政を行ふには第一に政權の鞏固を謀らざる可らず而して今の人文開明の世に於て政權の鞏固を謀らんとするには必ず多數の同意者を得て輿論を制するの力なかる可らざるが故に當局者は政府の內外に於て多數の同意者を得るを肝要とす可し[illegible]

[illegible]

[illegible]